


平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔外科2（修復系）	
研究期間：平成22年4月28日～平成25年6月29日	
研究課題名：口腔領域の血管腫・血管奇形に対するポリドカノールを用いた硬化療法	
研究課題の概要及び成果： <p>口腔領域に発生する血管腫・血管奇形は比較的多く遭遇する良性の疾患であることから、整容性、機能性、安全性という観点からのアプローチが求められる。現在、治療法としては、保険適応とされているのは外科療法、凍結療法のみである。</p> <p>近年、血管腫・血管奇形に対して、経血管的な塞栓療法や硬化剤注入、経皮的な硬化療法といった治療が報告され、いずれも優れた治療成績をおさめている。口腔領域に発生する血管腫・血管奇形は大部分が血流速度の遅い low-flow type であり、硬化療法が適応可能である。そこで、下肢静脈瘤や食道静脈瘤に対する硬化剤として有用性が明らかにされているポリドカノールを用いて、口腔領域の血管腫・血管奇形に対する硬化療法の治療法を確立するために臨床研究を行った。</p> <p>現在までに、舌の2例、頬粘膜の1例に対して、硬化療法を施行した。舌の1例は、径8 mm の小さな静脈奇形で、1回の硬化療法（ポリドカノール 30 mg）で3ヵ月後には消失した。頬粘膜の1例は、12×7 mm の隆起性の静脈奇形で、1回の硬化療法にて明らかに縮小し、3ヵ月後で径4 mm の暗紫色の着色は残存するも平坦化し、自覚症状は消失し、増大傾向も認めない。舌のもう1例は舌尖部から舌縁部に至る25×10 mm の病変で、大きく3つの部位に分かれており、その中の1カ所に2回硬化療法（同30 mg）を施行した。その結果、大きさは減少し、自覚症状も軽減したが消失には至らず、12ヵ月後に3回目の硬化療法を施行し、ほとんど消失した。</p> <p>いずれの症例も、硬化療法直後の局所の腫脹を認めたが約1週間で改善し、その他、問題となる全身のおよび局所的有害事象は出現せず、極めて有効な治療法と考えられる。</p>	
上記概要・成果に関連する図表等	
	
硬化療法前	硬化療法施行3ヵ月後